

## 南相馬市博物館 企画展

## 相馬駒焼

平成22年 1月23日(土)～3月14日(日)



駒絵茶碗

二代作 当館蔵 直径14.0cm×高9.5cm



菊絵碗

伝野々村仁清作  
当館蔵 直径16.0cm×高8.5cm

相馬駒焼は、相馬地方で生産される陶器のひとつです。窯元田代家は奥州中村藩の城下町中村(現在の相馬市中村)にあり、江戸時代には藩窯として営まれました。その後、明治・大正・昭和期を経て現在に至ります。

今回、相馬駒焼について当館所蔵資料を中心に展示します。また、大堀相馬焼など当地方の陶器及び東北地方のうち一部の陶磁器もあわせて展示し、相馬駒焼の全容とともに、近世東北地方の陶磁器についても紹介します。

## 展示予定資料

相馬駒焼・相馬地方の陶器類(大堀相馬焼、館ノ下焼、小野相馬焼)・東北地方の陶磁器類(会津本郷焼、堤焼、切込焼、平清水焼など)・田代家伝来の「伝野々村仁清碗」

## 観覧料

区分	個人	団体
一般	400円	350円
高校生	200円	150円
小中学生	100円	80円

団体料金は20名様以上 市内に居住・通学する小中高生は無料  
障がい者の方は無料(手帳をご提示ください)

## 当館学芸員による展示解説会

平成22年1月31日(日) ①10時30分 ②13時30分

## 講演会

講師・日時ともに未定。詳細はポスター等をご覧ください。

## 相馬駒焼

相馬駒焼は、江戸時代、城下町中村(現在の相馬市中村)にある奥州中村藩の藩窯(「御留窯」)でした。江戸時代において、藩から厚く保護され、田代家(田代窯)のみで作られ、主に幕府や諸藩への贈答品として利用され、一般の人には販売されませんでした。相馬駒焼の起源は、一説には田代家初代源吾右衛門が江戸時代前期に京に上り、丹波焼清右衛門(後の野々村仁清)のもとで修業し、慶安年間(1648～52)以降に創業したとされます。その際、源吾右衛門は師清右衛門の一字を贈られ、清治右衛門と改めました。当初清治右衛門は、習い覚えた仁清風の色絵茶碗や瓢(ひさご)徳利などを焼いていましたが、後に砂焼にその製法を考案し、相馬家の幕紋である繋ぎ駒にちなんだ駒の絵を描いて相馬駒焼を創始したとされます。以来御留窯として田代家は代々続き、御留窯最後となる十一代為清は、慶応3年(1867)禁裏(朝廷)に駒焼茶碗と花入れ、菓子皿を献上し「法橋(ほつきょう、あるいは、ほうきょう)」の宣旨(せんじ)を受けました。そして、明治時代となり藩からの保護がなくなると、自ら販路を求めると製品に銘印「田代」「法橋」を用いるなどし、窯の存続に努めました。それ以降法橋の名は代々襲名され十五代の現在に至ります。

## おかげさまで 20万人 達成

平成21年10月16日(金)、当館の入館者数が20万人を達成しました。20万人目になられた方は、大川原旭さん(いわき市)。大川原さんには、20万人目の認定書と花束のほか記念品が贈られました。

前後賞の及川伸耕さんと佐藤富子さん(いずれもいわき市)にも記念品が贈呈されました。3名の方々は、いわき市民大学講座の施設見学で来館されました。



20万人目および前後賞のみなさん。左から前賞の及川さん、20万人目の大川原さん、後賞の佐藤さん。

常設展示室 ミニテーマコーナー

# ヤマメに会いたい!!

平成21年 12月22日(火) ~ 22年 3月28日(日)

— 溪流釣り解禁の春よこい!! —



ヤマメ (サケ科)

寒い冬。春が待ち遠しく感じますね。南相馬市の川の上流にすむ魚・ヤマメも冬は深い水底でじっとしており、人間と同じく春を心待ちしているのかもしれない。

今回のミニテーマコーナーでは、釣人に人気のある川魚「ヤマメ」について、その生態や人との関わり(方言や食べ方、釣り)についてご紹介いたします。

ヤマメの塩焼き ▶



ヤマメ釣りの道具

(上・ルアー釣り 大亀清壽氏 蔵)  
(下・エサ釣り 加藤秀見智氏 蔵)



## 企画展「相馬の馬」こぼれ話

### 62年ぶりのお里帰り・初お披露目

国史跡 真野古墳群出土

# ば たく 馬鐸

相馬地方の人と馬の文化史を紹介し、12月6日に無事閉幕した企画展「相馬の馬」から、真野古墳群B地区から出土した「馬鐸」を紹介いたします。

真野古墳群B地区は、鹿島区小池地区に群集する19基の円墳から構成される群集墳です。大正12年(1923)に発見され、昭和22年(1947)に慶應義塾大学による学術調査が行なわれました。その調査で、地元の方が発見したこの馬鐸は、大学の考古学研究室に寄贈され、以来長く研究室に保存されていましたが、先日の企画展で、実に62年ぶりとなるお里帰りをし、地元で初お披露目となりました。観覧者の方々も、約1500年前の工芸技術のすばらしさと、数十年ぶりのお里帰りもあいまって、感慨もひとしおのようでした。



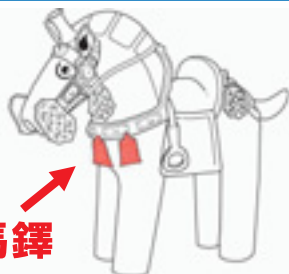
馬鐸

真野古墳群B地区8号墳出土 古墳時代/6世紀中頃  
慶應義塾大学文学部民族学考古学研究室蔵

#### 馬鐸(ばたく)とは…

古墳時代の馬具の一つ。「飾り馬」の胸につるした鈴の一種で、揺れると音が出る仕組みとなっていました。

真野古墳の飾り馬は、どのような音色をさせて歩んでいたのでしょうか。



馬鐸

高さ 11.8 cm。2点とも形や文様などが共通しています。外形は偏平な裾広がり円筒形で、下縁が弧状に練り込まれています。表面は長方形を十字に4区画に分割し、区画内には斜格子を配し、斜格子文の内部に粒状の珠がついています。馬肌に接する裏面には文様がなく、ヤスリによる整形痕が残っている優品です。

# かしまの歴史講座

当館学芸員を講師に、南相馬市の歴史や自然などを紹介する講座です。今年度はあと1回開催します。

詳細は、南相馬市博物館までお問い合わせください。

今後の予定 3月まで

期日	テーマ・内容
2月10日(水) 13:30	南相馬市博物館 企画展「相馬駒焼」見学会

※車での送迎をご希望の方は、13時まで南相馬市まごころセンター（鹿島区横手字川原186-1）にご集合ください。



講座のようす

10月7日 企画展「相馬の馬」見学会

## 鹿島歴史民俗資料館より

### 企画展

# 相馬地方周辺の鉱物

## ふっせき 霊山層の沸石 高ノ倉鉱山の鉱物

平成21年 12月6日 日～ 22年 3月28日 日

展示指導：橋本悦雄氏（日本地学研究会会員）  
展示協力：相馬中村層群研究会

相馬地方周辺には様々な鉱物が産出されます。

中でも、新生代新第三紀中新世の霊山層と呼ばれる地層から、13種類もの沸石が発見されています。中沸石はタンポポの毛状を呈していて、観る人を魅了する輝きを発する素敵な鉱物です。

また、新田川上流の高ノ倉鉱山から産した鉱物で、神秘的な青色を呈したまぼろしの新鉱物「飯館石」なども展示します。

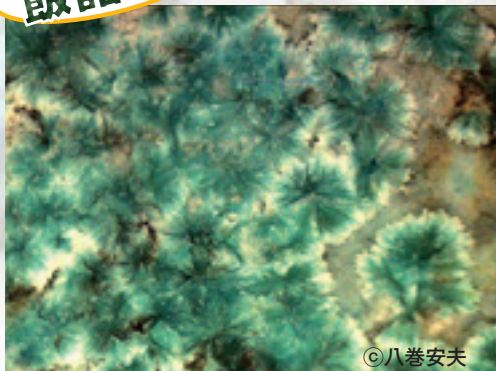
今回の展示では、相馬地方から産した沸石をはじめとする美しい雅な輝きを放っている鉱物の世界へ、皆さんをご案内します。



©平宗雄

まるでタンポポの綿毛のような「中沸石」

まぼろしの新鉱物  
飯館石 とは...?



©八巻安夫

「飯館石」断面の顕微鏡写真



©平宗雄

ウミナナの化石に生成した「輝沸石」



©平宗雄

白色半透明・六角板状の「レビ沸石」

# 南相馬市博物館の催し物

12月～3月

※申し込みはお早めに。定員になり次第締め切ります。  
問合せは 南相馬市博物館 0244-23-6421

期 日	タイトル	詳 細
12月19日(土)	博物館講座 美術講座「東北のやきもの」	13:30～15:30 定員40名 講師 水久保克英主査 冬の企画展にあわせた講座。相馬駒焼など江戸時代の東北周辺の陶磁器について紹介します。
12月23日(水) 天皇誕生日	体験学習 「正月飾り作り」	10:00～12:00 定員20名 講師 安藤安子氏 正月に玄関を飾る注連飾り <small>しめかざり</small> を作り、年中行事の中でも特に重要な正月行事について学びます。 【材料費】300円
1月16日(土)	博物館講座 「南相馬の外来種1」	13:30～15:30 定員40名 講師 稲葉修学芸員 南相馬市にみられる外来種について、その種類や特徴、現状について紹介します。
2月20日(土)	博物館講座 「南相馬の外来種2」	13:30～15:30 定員40名 講師 稲葉修学芸員 南相馬市の外来種が在来の生物に与える影響と、その防御・駆除対策と事例について紹介します。
2月27日(土)	体験学習 「ひな祭り」	10:00～12:00 定員20名 講師 結城多威氏 雛人形を飾る風習が雛祭りで、桃の節供と呼ばれていました。雛祭りの民俗的意味を紹介し、厄祓 <small>やくばら</small> いとしての雛人形を折り紙でつくってみます。
3月20日(土)	博物館講座 「まぼろしの 相馬義胤の甲冑と肖像画」	13:30～15:30 定員40名 講師 二上文彦学芸員 戦災で焼失してしまったという、戦国武将・相馬義胤の甲冑と肖像画とは、いかなるものだったのでしょうか。戦前に撮影された写真を中心に紹介します。
3月27日(土)	体験学習 「縄文時代のお面を作ってみよう」	10:00～12:00 定員20名 講師 佐藤祐子学芸員 縄文時代に作られた土面の使い方や成り立ちについて学習し、粘土で実際に作り土面の歴史を学びます。 【持ち物】タオル1枚
1月10日・2月7日 3月7日	古文書解読講座	13:30～15:30 定員20名 【持ち物】原稿用紙・筆記用具 相馬の歴史について書かれた江戸時代の記録書「東奥中村記」をテキストとします。

## 考古学フキサロン

定員40名 講師 文化財課職員 いずれも13:30～15:00

期 日	内 容
1月30日(土)	縄文人と弥生人 ～日本人のなりたち～
2月13日(土)	自然への祈り ～縄文人と動物～
3月6日(土)	考古学への招待(2)～考古学からみた南相馬～



土の中から出てきた土器や瓦は私達にどんなメッセージを伝えているんだろう？  
資料にふれたり、素朴な疑問をみんなで考えながら、昔を知ってみませんか？



折り紙で手作りひな人形を作しましょう  
「ひな祭り」



縄文人の気分になって  
「縄文時代のお面を作ってみよう」

## 各館のご利用案内

**南相馬市博物館** 問合せ 〒975-0051 原町区牛来字出口194 電話：0244-23-6421 FAX：0244-24-6933  
E-Mail：hakubutsukan@city.minamisoma.lg.jp

開館時間 9:00～16:45 (最終入館は16:00まで)

休館日 毎週月曜日および年末年始(12月29日～1月3日) ※月曜日が祝・休日の場合は開館、その翌平日が休館日となります。

観覧料 一般300円(250円) 高校生200円(150円) 小中学生100円(80円) ( )は20名以上の団体料金です。

※企画展開催中は観覧料が異なることがあります。市内に居住・通学する小中高生は無料です。障がい者の方は無料です。(手帳をご提示ください)

**鹿島歴史民俗資料館** 問合せ 〒979-2442 鹿島区西町三丁目1 電話・FAX：0244-46-4281  
E-Mail：k-shiryoukan@city.minamisoma.lg.jp

開館時間 9:00～16:45

休館日 毎週月曜日および年末年始(12月29日～1月3日) ※月曜日が祝・休日などの場合は開館、その翌平日が休館日となります

観覧料 一般110円(団体は20名以上半額) 中学生以下無料 ※市内に居住・通学の高校生は無料です。障がい者の方は無料です。(手帳をご提示ください)